

緒言

本報告書は、厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)「総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究」班の平成28年度の研究成果をまとめたものである。平成27年6月の「今後のがん対策の方向性について」と題した厚生労働省・がん対策推進協議会の報告書に今後推進が必要な対策としてAYA世代を含むライフステージに応じたがん対策が掲げられた。本研究班では、平成28年度にわが国のAYA世代のがん医療の実態調査を行い、AYA世代がん患者・サバイバーのニーズと充足度、医療者の意識、および、医療提供体制の現状を明らかにした。また、それを基にAYA世代のがん対策の議論に資する資料を作成提示し、政策提言を行った。また、3本目の柱であるがん・生殖医療連携体制の整備についても、地域完結型連携システムの全国展開を一層進めるとともに連携の問題点を明らかにし、ナビゲータの育成・配置の重要性を提示した。

これらも踏まえられて、第3期がん対策推進基本計画に具体的な施策が盛り込まれることになった。その素案には、「2. がん医療の充実」の中で、「AYA世代の診療体制を検討する。AYA世代の多様なニーズに応じた情報提供、包括的な相談支援・就労支援を実施できる体制の整備について、対応できる医療機関等の一定の集約化に関する検討を行う。さらに、治療に伴う生殖機能等への影響等、世代に応じた問題について、治療前に正確な情報提供を行い、必要に応じて、適切な専門施設に紹介するための体制を構築する。」と具体的な取り組むべき施策が記されている。また、「3. がんとの共生」においても、「長期フォローアップに関してライフステージに応じて成人診療科と連携する切れ目のない体制整備を推進する。」とし、「就労支援」、「緩和ケア」、「外来や在宅における連携」に関する施策が記載された。今後、これらの施策が実施されることで、AYA世代のがん患者・サバイバーの医療及び社会生活環境の改善が期待される。

本研究班においても、今後、関連の学会や団体、さらに報道機関と連携して広く啓発普及活動を行っていくとともに、診療・支援ガイドラインの作成、および情報ツールの開発を行うことでAYA世代のがん医療の質の向上に資する成果を創出していく計画である。

皆様には、本報告書を通じてAYA世代のがん患者およびサバイバーが抱える問題や医療・支援に関する問題点をご理解いただき、より良い医療・支援体制の構築のためにご指導ご鞭撻を賜れば幸いです。

平成29年5月

研究代表者 堀部 敬三

国立病院機構名古屋医療センター臨床研究センター